

釣れ釣れなるままに

2010年思い出の釣行記 PART. 5

アナゴに取憑かれて

鹿島釣狂

☆釣行日	平成22年7月10日(土)		
☆釣果	ソウハチ	150 mm	6
	カンカイ	200 mm	2
	クロゾイ		1
	ガヤ		5

ソウハチ

前野氏から苫小牧西港でのアナゴ釣りのお誘いがかかる。アナゴ釣りにはまだ時期が早いと思うがどんなもんだらう。南埠頭には午後4時頃着いたが、いつもは混んでいて竿を出す場所を確保するのに難儀するのだが、ガランとしており釣り人は誰もいない。あずましい釣りが出来ると直角で車を止めて準備に入る。しかし、まもなく監視員がやってきて、港に作業船が入って荷積み作業をしているので南埠頭は立ち入り禁止になっていると追いつ出されてしまった。それで釣り人は誰もいなかったのだと納得する。

菱中造船所前の防波堤、西埠頭、東埠頭、晴海埠頭、中央北埠頭を見て回るが、なかなか入釣場所が見つからない。結局西埠頭石炭ヤード前で竿を出すことになる。先に入っていたソウハチ狙いの釣り人に聞くと18時にはここを追い出されゲートが閉められるという。竿2本だけ出して様子を見る。すぐにアタリがありソウハチがダブルで釣れた。期待が膨らんだがその後はパツとしない。

18時になったので、南埠頭に向かうと作業船はおらず、釣り人がポツラポツラと入っている。もちろん直角は開いていなかったなので係留杭7番で竿を出す。アタリがあったが

カンカイやソウハチばかりである。バシャッ、バシャッと海面を跳ねる魚がいる。何だろ
うと磯竿を伸ばしてウキ釣りを試みる。しかし釣れてくるのは岸壁沿いに居着いたチビゾ
イやガヤだった。アタリもなく20時半には竿をしまった。

今日は3時半からサッカーワールドカップの決勝戦が中継される。眠たい目をこすりな
がら見たが、スペインがオランダに勝って優勝をもぎ取った。パスサッカーの勝利である。



西埠頭、入釣後すぐにソウハチがダブルで釣れる。

☆釣行日	平成22年8月11日(水)
☆釣果	アナゴ 2 (57cm 38cm)
	ソウハチ 200 mm 1
	クロゾイ 150cm 1
	ホタテ 1

ホタテ

娘夫婦が帰省するというので、12日の勤務を休みにした。娘夫婦には何か旨いものを
食わしてあげたい。11日早出の勤務が終わり、4時、苫小牧に向けて出発し、5時半に
は中央南埠頭に着いた。本日は平日で、しかも台風4号の接近のために前線が北海道に停
滞し、胆振地方は大雨・洪水・雷警報が発令されている。南埠頭でも釣り人は少ないだろ
うと思われたが、今回は中央南埠頭にする。アタリがなければ南埠頭への移動を視野に入
れながら・・・。

釣り人が一人竿を出しており、情報を交流していたが、新たに若い釣り人が来たので慌ててフェンス前の角に竿を設置する。彼はこの港を熟知しているようで、勇払埠頭でソイを狙ったが駄目で、ここでもう一踏ん張りするという。鉄塔下は2～30m先に駆け上がりがあり、そこからクロガシラが出るので、5・6月は釣り人で満杯だともいう。

アタリは皆無で、恒例のヒトデだけは飽きもせずが上がってくる。午後7時に赤い鉄塔下に移動する。8時頃、かけ上がりに近投していた竿にあのフワフワとしたアタリが出て合わせると小アナゴである。1本でも出れば満足と思っていたが、小物では娘夫婦に味わってもらえないのもう少し粘ることにする。

道釣連手稲支部の方が2名来たので情報を入手する。彼らはそれぞれアナゴを1本ずつ確保していた。予報通りのゲリラ豪雨とも思える土砂降りになってきた。カッパの中までじわじわと雨が染みこんでくる。釣り人はみんな帰ってしまった。こんな状況でよく釣りを続けることが出来るものだと我ながら感心してしまう。10時頃、遠投で鋭い当たりがあり、大アナゴかと思ったが残念ながらソウハチだった。そして同じようなアタリがきて竿を煽るとゲー、ゲーと竿を押さえ込むアナゴ独特の引き込みだ。本日2本目となる60cm弱のアナゴがあがった。これで娘夫婦にはアナゴを賞味してもらい出来るだろう。ホタテが釣れた。私の仕掛に他人の仕掛が絡みつき、その仕掛につけたテニス線を銜えていたのだ。

土砂降りがカッパの下まで浸透してきたものなのか、自分の汗が抜けきらないで蒸れているのか分からないが下着までもがぐしょぐしょになってしまった。人目がないので全て



を脱いでスッポンポンとなり、寒さ対策のために用意しておいた上下のジャージに着替えた。

持ち帰った釣果は全て天麩羅にした。ホタテ、ソイ、ソウハチ、そしてメインのアナゴは娘夫婦にすこぶる好評だった。

土砂降りの中での貴重な釣果

☆釣行日	平成22年8月22日(日)
☆釣果	アナゴ 2 (40cm 38cm)
	ソウハチ 200 mm 6
	ドンコ 250cm 2

ドンコ

前野氏と中央南埠頭を見てから南埠頭へと向かい、係留杭12番で竿を出す。ソウハチがポツンポツンと釣れる。右角で竿を出していた釣り人がやめるというのでそこに入れてもらう。辺りが薄暗くなってきたがアタリが出ない。周りでも誰一人として釣果がない。4本の竿をひっきりなしにさびく。さびいている最中によりやくコツンとアタリが出て、少し間を置くとアナゴ独特のフワフワとしたアタリが出た。小物だったがようやく1本でたことで気をよくして、同じように4本の竿を丁寧にさびく。何度かアナゴのアタリが出るのだがハリ掛かりせず、喰い渋っている。

明確なアタリであがってきたのはドンコである。今回はこのドンコを食してみようとアナゴと共にクーラーボックスにしまい込んだ。

帰ってから生きのよいドンコを捌いてみた。柔らかい白身でアナゴと共に天麩羅にして食べてみた。味はさっぱりとしているが水っぽさは否めない。この次は干してから食してみようと思う。



ドンコを持ち帰りアナゴと共に天麩羅にしてみる

☆釣行日 平成22年9月19日(日)
☆釣果 アナゴ 67cm、58、57、50、49、45、44、39、鉛
筆2本

馬糞

札幌に出かけた女房がケーキを買ってきた。今日が我々の結婚記念日だという。釣りのことで頭がいっぱいですっかり忘れていた。あすは敬老の日で、岩見沢の百餅祭りでもあ

る。

午前中は岩見沢釣具センターで物色し、午後から苫小牧に向けて出発した。時間的には早いので近郊でアナゴの状況を聞いて回る。浜厚真漁港、東港フェリー埠頭、東港石炭ヤードコール岸壁、1本防波堤と立ち寄ったがパツとした情報は無かった。勇払の街を通り抜けて中央南埠頭に着くと鉄塔下で中学生の兄弟が竿を出していた。ソイを狙って夕方まで釣りをするというので待てるはずもなく、勇払埠頭を経由して入船埠頭に立ち寄ってみる。ここでもファミリーフィッシングが中心でアジやチカを狙って竿を出している人がほとんどだった。結局、南埠頭で竿を設置することとなった。

25号竿4本を出す。竿2本はナイロン4号で中投する。竿2本は本日購入のナイロン2号+力糸2号~12号の組み合わせで遠投する。今まで使用していた2号縫糸は少しの風で糸ふけがして扱いつらかったが、2号ナイロンになると糸ふけが減り距離も出て快適な釣りとなった。



夕闇が迫ってきた。

夕闇が迫ってきた頃、周辺ではアナゴを狙った釣り人が岸壁に並んだ。そしてすっかり日が落ちた午後6時、遠投した竿にフワフワとアタリが出た。軽く合わせてリールを巻くと特有の引き込みで、取り込んだアナゴは45cmだった。

午後8時頃、竿尻が上がる明確な大アタリが出た。時折刺さりこむ感じは今までにない大物を感じさせる。これは自己最身長になる67cmの大物だった。

しばらくアタリのない時間が続いたので周辺を散策して歩いたが釣果の上がっている様子はない。改めて釣り場に戻ると1本の竿に糸ふけが出ている。糸ふけをとってからそつと合わせて取り込むと、小アナゴがぐるぐる巻きになって自分の体を結んでいた。それから一気に上向きになりアナゴが釣れ続いた。周辺ではあまり釣果が出なかったこともあり、

千歳からきたという隣の釣り人からは「釣りすぎるな」とたしなめられた。今日の港は、自分の投げる飛距離が丁度会っていたのだと思う。

ルアー竿を担ぎクロゾイを手にした若者が声をかけてきた。「釣具店で初めてワームを購入して釣りをしてみた。こんなもので釣れるわけではないと半信半疑だったが、釣具店で教わったとおりに引いていると30cmほどの大物が釣れた。凄い引きなのでびっくりした。しかしその魚の名前が分からないので教えてほしい。」というのだ。

日が回ったので終了したが、本日はリリースした鉛筆ハモ2本を含めると10本の釣果だった。



本日の全釣果。最大は67cmでとりあえずは新記録。今日はツブがやたらと掛かり、何気なく水バケツに入れていたのが5個になった。更にバフンウニまで釣れてきたのには驚かされた。



内臓の周りには白い脂がのっていた。いわゆる内臓脂肪のメタボなやつだった。

☆釣行日 平成22年10月02日(土)

☆釣果 アナゴ 鉛筆2

エンピツ

釣り新聞には、苫小牧のどの埠頭でも★が2つ付いており、アナゴ5匹~10匹という好調さだ。しかし、入船埠頭はノーマークだ。3日は大雨に風が強いと予報で、前日の2日に出かけることにした。午前勤務が終わって、前野宅に駆けつけると準備は整っており、午後2時には出発した。

入船埠頭に立ち寄ってみると予想通りすいており、角の夫婦を囲むようにして右に前野、左に私が入った。角の夫婦もどこへ行っても釣り場は満杯で入るスペースがなくここに来たとのことである。私の左に入っていた御仁も思いは同じだった。

午後5時半には暗くなり始め、皆、竿先ライトを付けて戦闘モードに入った。しかしアナゴからのアタリは皆無だ。角に入っていた夫婦はPE0.8号で遠投を繰り返している。その夫のほうにアナゴの大物がかかった。アタリがないので一旦車で休憩していた奥さんが戻ってきた。すると奥さんのほうにもアタリが出てこれも型のよいアナゴを釣り上げてしまった。

私たちの後に入った左の釣り人もPE0.6号で大遠投している。ビシュッ、ビシュッと振り抜く竿からきれいな弧を描いて仕掛が飛んでいく。彼は最終的に15本のアナゴを釣り上げた。彼のさらに左に入った釣り人もPE0.8号で大遠投している。彼が闇夜を切り裂き振り抜いた竿の音は、私のものとは桁が違う。彼はアナゴ9本の釣果だった。

この入船埠頭はフェリーの航路に沿ってかけ上がりが続いており、右に寄るほどその航

路が岸壁から離れていき遠投が必要だという。60mラインから150mラインというところか。私のところは140mの遠投が必要だという。私にはとうていそのラインに届くはずもなく、結局4回のアタリでエンピツ2本という貧果だった。ラインシステムを取り替えると共に、体力づくりにも精を出して、来年に奮起したい。

☆釣行日 平成22年10月24日(日)
☆釣果 アナゴ50cm 3 カンカイ 2

カンカイ

来年の奮起を誓ったところだが苦小牧港でクロガシラが釣れ出したという情報をもとに、夕まずめはクロガシラ、陽が落ちてからはアナゴを狙うべく午後1時に岩見沢を出発した。

燃費を考えて新規購入にした三菱RVRの調子はどうだろう。出発したばかりはなかなか上がらなかった平均燃費も苦小牧に着く頃は14km/hを表示していた。今までの愛車であったハリアーの約2倍である。これからは今までの2倍分の釣行が出来るというものだ。

カーナビの目的地設定を苦小牧港南埠頭としたが、前回惨敗した入船埠頭の様子はどうだろうと立ち寄ってみた。前回好調だった辺りに2名入っているのみで、ガランとしている。自分の遠投技術の未熟さから、比較的かけ上がりが近いとされているフェリー発着場近くに竿袋を置いた。

札幌からきたというその二人に声をかけると午前9時から来ているがクロガシラ1枚釣っただけとフラシをあげてくれた。そのフラシには40cm弱のものが収まっていた。チョイ投げで釣れたという。その彼らが引き上げるというので少し幅をとって4本の竿を出し、チョイ投げから私の届く範囲の遠投まで幅広く打ってみる。釣り人は、端っこのほうにチカ釣り師が数名いるのみだ。

何も釣りものがないまま時間が過ぎていく。夕闇が迫ってきた。右に三川から来たという釣り人が入った。タクシーの運転手をしていたが社長と大喧嘩してやめてしまった。23年ほど勤めたが、今は何もすることがないので釣りばかりしているという。前回の様子から遠投が必要だと忠告すると、彼は道糸を5号のナイロン糸から2号のナイロン糸に変更して大遠投を繰り返している。私も彼を真似て思い切り振ってみるが、せいぜい100mというところか。しかも、投げ損なった仕掛けにカンカイが釣れたのみである。

私より更にフェリー発着岸壁に近いところに3名の釣り人が入った。全てチョイ投げで忙しそうに動き回っている。そしてすぐに大きなアタリが出て竿を大きく曲げている。何が釣れたのだろうと近寄ってみると大アブラコが海面を叩いている。上げるのはチト無理そうなので、大アナゴのために用意したタモ網で掬ってあげた。50cmを優に超える大アブラコだった。かけ上がりが一番遠いとされる角にも釣り人が入った。かなりのお歳のように飛距離も出ていない。しかし見る間に50cm前後のアナゴを2本も釣り上げた。遠投を繰り返していた三川の御仁には1本も来ていない。どうなっているのだろう。海は全く分からない。

私は、9時頃になってようやく50cm程のアナゴが3本来て溜飲を下げたが、どれも近投だった。本当に海はどうなっているのか分からない。まだまだ釣れる予感はあるのだが、明日の勤務があるので10時には埠頭を後にした。

札幌から来たという釣り師佐藤一幸氏

